

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0838
施設名	月島聖ルカ保育園
施設所在地	中央区月島4-5-8
法人名	社会福祉法人ひかりの子

1. 活動のテーマ

<テーマ>

既存の何かを超えた新しいカタチ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では子供の自由で主体的な発想を重視しているため、テーマを「既存の何かを超えた新しいカタチ」に設定。

堤防の斜面に色とりどりで長さの違う芝を設け、色彩や感触の違いを体感してもらうとともに、子どもたちの自由な体の動き（登る・滑る・留まる等）を拡充し、視覚・触覚・身体感覚が同時に刺激される環境を構築する。

2. 活動スケジュール

・10月から各クラス活動日を設定し、保育士が斜面を使った活動を展開する際に、色や感触についての質問を投げかけ、子どもたちの気づきを促す。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

園庭の堤防斜面に芝の色・長さが違う人工芝を敷設。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・子どもたちに色の呼称を尋ねて、色に名称がある事や、同じ呼称であっても、かすかな違いがある事を知り、同じ呼称であっても、広がりがある事に気づいてもらう。

・長さの違う芝を利用し、長さの違う芝を触るとどんな風に感じるとと問いかけ、芝の長さや触る方向によって感触が違うことを知る。

・斜面の芝にロープを垂らして斜面を登り、短い芝と長い芝で登りやすさの違いを体感する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・堤防の斜面に施された芝の色について問いかけた際、「これは何色だと思う？」という質問に対し、子どもたちからは「青」「水色」「そらのいろ」「みずのいろ」など、さまざまな呼び方や感じ方が返ってきました。このやりとりを通して、子どもたちはひとつの色にもいろんな名前があること、見る人によって感じ方が違うことを体験的に学んでいった。

・長さが違う芝の感触を訪ねると、「チクチクする」「ふわふわする」などの返答があり、子どもは芝の長さや密度による感触の差を感じ取り、「逆向きになでるとツンツンする」など、芝目に気づく姿も見られた。ある子は芝の上に寝転んで体全体を使って感触を楽しむ姿が見られた。

・実際に登ってみる中で、子どもたちは「こっちはツルツルしてすべる」「長い芝のほうが足がすべりにくい！」など、登る感覚の違いを捉え、その後それは何故かと問いかけたところ、「濡れているから」、「色が違うから」と様々な意見がでて、芝目の違いについて気付く子もいた。その後の子どもが園庭を駆け巡る姿を見ていると、登るときは長い芝を使い、降りるときは短い芝を使うなど、自然にその芝の特性を理解し活かす姿が見られた。また子ども同士で「緑色の芝は滑らないよ」といったやりとりも見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもが芝の色や触った感触に対していろいろな意見を表明したことから、子どもたちは大人とは違う世界を感じ取っていることに改めて気づかされた。
- ・芝の長さによる登りやすさの違いに気づいた子が、登り方を工夫したり、友だちに「こっちのほうが登りやすいよ」と伝えたりする様子から、気づきが次の行動へとつながることに気づいた。
- ・大人が用意した“遊び”をただ与えるのではなく、環境を教材として、子どもに気づきを与えることにより、遊びが自然発生し、子どもがよりその思考を深めていけるということに気づいた。